

エジプト学研究第 18 号 2012 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.18, 2012

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
第 4 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・西坂朗子・高橋寿光	5
エジプト ダハシュール北遺跡発掘調査報告―第 16 次・第 17 次発掘調査―	吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・馬場匡浩・西本真一・柏木裕之・秋山淑子	21
2011 年太陽の船プロジェクト活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	69
〈研究ノート〉		
両面加工石器製作の生産体制について ―ヒエラコンポリス遺跡エリート墓地出土資料の分析から―	長屋憲慶	77
〈卒業論文概要〉		
岩窟墓の形態変化とアマルナ時代の影響	熊崎真司	85
〈活動報告〉		
2011 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		93
2011 年 エジプト調査概要		97
〈編集後記〉	近藤二郎	103

The Journal of Egyptian Studies Vol.18, 2012

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA	3
Field Reports		
Preliminary Report on the Fourth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian ExpeditionJiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Nozomu KAWAI, Akiko NISHISAKA, and Kazumitsu TAKAHASHI		5
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Sixteenth and Seventeenth SeasonsSakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Masahiro BABA, Shinichi NISHIMOTO, Hiroyuki KASHIWAGI and Yoshiko AKIYAMA		21
Report of the Activity in 2011, Project of the Solar BoatHiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA		69
Articles		
Bifacial Flint Production Groups in the Predynastic Egypt: Analysis of finds from Elite Cemetery at Hierakonpolis	Kazuyoshi NAGAYA	77
Summary of the Recent Undergraduate Theses		85
Activities of the Society, 2011-12		93
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2011		97
Editor's Postscript	Jiro KONDO	103

2011 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告

1. 総会

日時：2011年4月18日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

2. フォーラム、シンポジウム

(1) 公開シンポジウム『世界遺産エジプト、メンフィス・ネクロポリスの未来

ーエジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究ー』

日時：2011年7月2日（土）14:00-18:00

会場：早稲田大学小野記念講堂

プログラム：

・「はじめにープロジェクトの趣旨と概要」

吉村作治（研究代表者・早稲田大学名誉教授）

・「エジプトにおける遺跡整備計画の現状と今後の展望」

近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授・早稲田大学エジプト学研究所所長）

・「メンフィス・ネクロポリスにおける保存整備例」

青木繁夫（サイバー大学世界遺産学部教授）

・「アブ・シール南丘陵遺跡および周辺の遺跡管理に向けた調査」

河合 望（早稲田大学理工学術院客員准教授）

・「衛星データを用いたメンフィス・ネクロポリスの遺跡の分布・立地環境調査」

惠多谷雅弘（東海大学情報技術センター事務長）

・「アブ・シール南丘陵遺跡の三次元デジタルモデル化について」

阪野貴彦（東京大学生産技術研究所特任助教）

・「メンフィス・ネクロポリスの地理情報システム（GIS）による基盤構築の現状と課題」

津村宏臣（同志社大学文化情報学部准教授）

・パネル・ディスカッション「世界遺産メンフィス・ネクロポリスの未来」

コーディネーター： 近藤二郎

パネリスト： 吉村作治

青木繁夫

中川 武（早稲田大学理工学術院教授）

惠多谷雅弘

河合 望

・「研究代表者による総括」

吉村作治



パネルディスカッション風景

(2) エジプト・フォーラム 20

日時：2011年11月5日（土）15:00-18:00

会場：早稲田大学国際会議場井深大記念ホール

プログラム：

・「開会の挨拶」

近藤二郎（早稲田大学教授・早稲田大学エジプト学研究所所長）

・「表彰式」

・「第2の太陽の船 復原プロジェクト ビデオ上映」

・「基調講演『太陽の船の謎を探る』」

吉村作治（早稲田大学名誉教授）

・「パネル・トーク『甦れ！太陽の船』」

コーディネーター：吉村作治

パネリスト： 中川 武（早稲田大学教授）
柏木裕之（サイバー大学教授）
黒河内宏昌（サイバー大学教授）

戸田 勝（(株)戸田石材代表取締役）

阪野貴彦（東京大学生産技術研究所特任助教）

増澤文武（(財)元興寺文化財研究所名誉研究員）



満席となった会場

懇親会会場：アバコ・ヴィラフェリーチェ

3. 定期研究会

(1) 第9回

日時：2011年4月18日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「ナップートの民族誌」

発表者：瀬戸邦弘（上智大学文学部専任嘱託講師）

(2) 第10回

日時：2011年8月5日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「新王国時代第18王朝アマルナ時代末期の王位継承に関する諸問題」

発表者：河合 望（早稲田大学理工学術院客員准教授）

(3) 第11回

日時：2011年10月24日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「アムドゥアト書で飾られた18王朝の王墓の埋葬室について～その構造と壁画とテキストの関係からみた若干の考察～」

発表者：菊地敬夫（サイバー大学世界遺産学部准教授）

(4) 第 12 回

日時：2011 年 12 月 12 日（月）

会場：エジプト考古学ビル 2 階

発表題目：「エジプト考古学におけるビジュアライゼーションの可能性」

発表者：内山博子（女子美術大学芸術学部教授）

4. 定期研究会発表要旨

(1) 「ナブートの民族誌」

瀬戸邦弘

エジプト・アラブ共和国の上エジプト地方では聖者を祝う祭に際して、ナブートと呼ばれる伝統的棒術の試合が行われる。そこには実践者たちのみに共有されるイーミックなレベルでの身体観が存在し、またその身体観を基とする身体技法が駆使され試合が展開される。本研究はこれら独自の「身体」とそれを基にする世界観の抽出を試みるものである。ところでこのような伝統的、地域的な身体を理解・抽出する事は、すなわち当該地域のエスノサイエンス（民族科学）の世界を理解することにも繋がる。たとえば、この競技は単なるスポーツを超え、そこで実践される所作や礼法を基に当該地域における人間関係の強化や再確認を促すひとつの文化装置と見てよい。上述してきた身体観や身体技法とはいわゆる「暗黙知」として存在し、上エジプトという限定されたローカルな空間に共有される文化コードといえる。したがって、本競技の考察は、地域におけるローカルアイデンティティ形成・強化のプロセスのひとつの事例研究にもなるのである。

(2) 「新王国時代第 18 王朝アマルナ時代末期の王位継承に関する諸問題」

河合 望

エジプト新王国時代第 18 王朝のアクエンアテン王の治世末期からトゥトアנקアメン王即位までの状況は依然として不明であり、研究者の間で見解の一致をみていない。本発表では、これまでの諸説と同時代資料を再検討し、アクエンアテン王の治世の末からトゥトアנקアテン王の即位の間に存在したと考えられる王の比定に関して、次のような私見を提示した。アクエンアテン王は、治世第 13 年以降に即位名「アंकケペルウラー」を持つ男性のセメンクカラー王を共治王として迎えた。セメンクカラーはアクエンアテン王の第 1 王女メリトアテンを王妃とした。セメンクカラー王の治世は 1、2 年で、その後共治王となったのは、即位名「アंकケペルウラー（アंकケペルウラー）＋形容辞」を持つネフェルネフェルウアテン女王であるとした。ネフェルネフェルウアテンの人物比定のついては、主にネフェルトイティ王妃とする説とメリトアテン王女とする説の 2 つがあるが、アクエンアテン王がセメンクカラー王を迎えた治世第 13 年以降に、ネフェルトイティ王妃に関する記録が無くなることから、ネフェルトイティ王妃は他界したと考えられ、セメンクカラーの死後に未亡人となったメリトアテンがネフェルネフェルウアテン女王になった可能性が高い。メリトアテンはセメンクカラーの死後にネフェルネフェルウアテン女王（アクエンアテン王の王妃を兼ねる）としてアクエンアテン王と共同統治を行い、アクエンアテン王の死後少なくとも 3 年間単独統治を行ったと指摘した。

(3) 「アムドゥアト書で飾られた 18 王朝の王墓の埋葬室について～その構造と壁画とテキストの関係からみた若干の考察～」

菊地敬夫

本発表では、アムドゥアト書で装飾された埋葬室をもつトトメス 3 世王墓、アメンヘテプ 2 世王墓、アメンヘテプ 3 世王墓を検討対象とし、冥界の書と埋葬室の関係性について考察を行なった。まず、これらの王

墓の埋葬室に記されているアムドゥアト書および太陽神への連禱（天井碑文）を読み解き、それらが記されている壁面または柱の位置を分析した。その結果、トトメス3世王墓の埋葬室の柱に記された天井碑文は、冥界に至る太陽神への祭祀を表していることがわかり、王墓の埋葬室は、冥界における祭祀空間であると考えられた。このような解釈は、アメンヘテプ2世王墓およびアメンヘテプ3世王墓の埋葬室に設えられた角柱の装飾と、アムドゥアト書の壁面への配置の分析からも裏付けられた。さらに、ルクソール神殿に施された太陽信仰の奥義書とも言えるテキストの内容と、アムドゥアト書に含まれている太陽神への讃歌の内容が密接に関連していることも示し、王墓の埋葬室が太陽神への祭祀空間としての役割を担っていたことを明らかにした。以上のように、王墓の埋葬室は、冥界における太陽神への祭祀空間としての機能を備えることによって、様式化された空間であった。

*本発表は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）「アメンヘテプ3世王墓に描かれた「アムドゥアト書」の史料化のための調査研究」（研究代表者：菊地敬夫）における成果の一部である。

(4) 「エジプト考古学におけるビジュアライゼーションの可能性」

内山博子

女子美術大学では、2005年1月に早稲田大学古代エジプト調査隊によって発見されたエジプトダハシュール北遺跡の未盗掘墓のミイラ「セヌウ」をCGで復顔する機会を頂いたことをきっかけに、エジプト考古学と美術とメディアテクノロジーの融合による研究が始まった。「セヌウ」と「ラムセス2世」復顔では、美術、エジプト考古学、解剖学のコラボレーションによって成果を得たことから領域を超えた研究の意義を実感した。この経験を通して、これまでエジプト考古学で研究されてきたことを美術分野で培われてきたアート表現のテクニックとメディアテクノロジーを融合させビジュアル化することで新しい研究の可能性が限りなく広がっていることがわかった。2011年には、AR技術を用いて表現した「太陽の船」では、ビジュアル化した画像に新しい表示技術を加えることで、専門の研究者のみならず広く一般の人にも伝えることができるコンテンツ制作が可能であることが実証された。今後のエジプト考古学の研究に、日々開発されている様々な新しい技術を積極的に取り入れ、美術の表現力を加えてビジュアライズすることで、お互いの分野が成長していくことを確信している。

5. 法人会員

早稲田大学エジプト学会の法人会員として、(株)熊谷組、(株)ポニーキャニオン、(株)アケトにご支援をいただきました。ここに記して感謝いたします。

エジプト学研究 第18号

2012年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.18

Published date: 31 March 2012

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University